



私たちの 町議会びらとり



▲平取サッカークラブ Jr. 練習風景

ここが聞きたい一般質問P2

委員会報告～質疑応答～P3

行政報告P6

審議した議案
第8～9回臨時会・第10回定例会P7

あの人に聞くP8

VOL. 109

2021.11.12

ここが聞きたい 一般質問

9月の定例議会では、2名の議員から2件の一般質問がありました。

木村 英彦 議員

二風谷ダム

今後の活用は

問 二風谷ダム完成後24年が経過

しましたが、計画貯水量と現在の貯水量、堆砂量を町としてどう把握しているのか。また、ダム着工時の沙流川水資源に関する調査報告書には25年でダムは堆砂で埋まると記されていますが、それ以上に状況は進んでいると感じます。堆砂している砂利の利用も併せて浚渫すべきと考えますがいかがか。

答 (まちづくり課長)

二風谷ダムの総貯水量容量は、昭和58年の段階では3150万 m^3 となっていました。当初、土砂はダム堤体内に垂直に堆砂することが想定されていました。しかし、平成15年の台風10号の豪雨で、治水計画を上回る水量となり、自然の河床に沿って大量の土砂が堆砂したことにより、計画が見直されまし

た。現在の状況は、令和2年度末で

1280万4000 m^3 、計画堆砂容量と比較すると89.5%まで既に堆砂が進んでいるという計算になります。運用上は計画堆砂に至っていないということですが、大きく堆砂容量を變更した経緯や沙流川は砂が溜まりやすい河川だということもあり、砂利活用も含め、室蘭開発局と協議し、積極的に要望したいと思っています。

問 二風谷ダムの左岸のダム公園

が崩壊して立入禁止になっているため、観光客が来ても湖畔に近づけない状態です。ダム公園の周辺には博物館、歴史館、二風谷コタンもありますし、イオル交流センターも建設中で、今後も観光の拠点として期待できますので、早急に補修すべきと思いますがいかがか。

また、ダム竣工当時は湖畔まつりなども行われ、観光にも活かされていました。今後、町と室蘭開発局が一体となって今一度、二風谷ダムが有効に活用される方策を考えていただきたいと思いますがいかがか。

答 (まちづくり課長)

現在、経年劣化による園路の段差の発生など整備が必要な状況で、予算要求のための調査を行っています。また、二風谷地区の再整備計画検討会議にダムの所長にもオブザーバーとして参加いただき、情報共有しながら、二風谷のアイヌ文化の振興とそれを観光にどう絡めるか室蘭開発局と協議を進めていきたいと思っています。



△二風谷ダムの様子

四戸 正彦 議員

災害に強いまちづくりに向けて

問 平取町の災害時の避難場所

における新型コロナウイルス感染症対策と自治会等との災害時のGISの連携、災害用食料備蓄品の管理体制について伺います。また平取町は関係機関や企業との災害時協定を締結していますが、災害時に十分に機能するのはいかがでしょうか。

答 (まちづくり課長)

避難場所の設置マニュアルはすでに作成しており1世帯9 m^2 、ソーシャリティスタンス2 m を基本に見直していますし、衛生関係の備蓄品は感染防止対策のため拡充を図っています。

GISシステムについては、要支援要介護者及び障害者等の最新の情報を更新しながら支援台帳を整備し、運用しています。災害時に自治会等へ情報提供するためには、個人

情報の取り扱いなど課題はありますが、現在協定を結ぶための作業を行っているところです。

食料備蓄に関しては、現在15か所に配置場所を定め、消費期限管理台帳で管理しています。

地域防災計画の応援協定は、現在28項目を数え、例えば日高町とは災害時の相互応援に関する協定の締結もしています。また、食料備蓄品の供給ではびらとり農協、仮設のプレハブはレンタル業者、長期化した場合は、LPガス災害対策協議会や日高青少年自然の家と施設提供の協定も結んでいます。

問 道と平取町の調査による災害危険箇所はどのくらいあり、今後どのように整備されていくのか伺います。

答 (まちづくり課長)

土砂災害警戒区域については44か所、特別警戒区域が17か所あり、今年5月で調査は終了しました。ハザードマップで明確に警戒区域を知らせて避難体制を啓発していき、工事が必要な場合には道への要望活動等を行っていきます。



△平取町防災ガイドマップ

総務文教常任委員会

8月30日開催 報告事項

◆学校訪問について

8月24日から25日にかけて町内の小中学校を訪問し、運営等について事務調査しました。

Q コロナ禍において自主欠席はあったか。また、その後の子供たちの様子はどうか。(櫻井)

A 数校において自主欠席はあったが、保護者とも都度対応し、現在では登校している。

Q 働き方改革は順調に進んでいるか。(四戸)

A ほとんどの学校で思うように進んでいないというのが実態。校務支援システムの導入などにより負担軽減を図りたい。また、スクールサポートスタッフの採用も効果があった。

Q スクールサポートスタッフは、どのようなたちで運用されているのか。(高山)

A 新型コロナウイルス感染症対策に係る学校現場への人的支援で、学校内の消毒、子供たちの健康観察のとりまとめなど、教員の増加した業務を補助しています。

◎櫻井議員からは、ヤングケアラーや子供の貧困、虐待などが、このコロナ禍においてさらに増長している。地域としっかり連絡を取りながら、子供たちの変化に気を配ってほしいとの要望がありました。

◎四戸議員からは、小学生全体の体力が低下しているので、基礎体力づ

くりにもっと力を注ぐべきとの指摘がありました。

Q 振内中における今後の生徒数の推移を見ると、令和6年には複式学級になることが予想されるが、教育環境としてどう考えるか。(高山)

A 中学校での複式学級という学習環境は非常に難しく、教育委員会としてもできるだけそうならないように、地域の方々も含め丁寧に説明しながら検討したいと思います。

※校務支援システムとは
児童生徒に関する様々な情報を一元管理するシステムのことです。

※ヤングケアラーとは
家事や家族の世話、介護のサポートなどを行っている18歳未満の子どものことです。



◆びらとり協働のまちづくり事業の
進捗状況について

この事業は、「平取町民1%事業」に代わるものとして、今年度から実施されています。この事業には、青年提案型ということで中学・高校生にも提案して頂きたいというカテゴリでも設定されています。7月に4件の応募があり、3件を採択としています。(まちづくり課)

Q この事業の採択方法はこれまでと同様か。また、事業は3年間までとなっているが、毎年事業評価しての継続となるのか。(櫻井)

A 事業の採択については、選考委員会で決定します。事業の延長に関しては、毎年事業評価をして判断します。

◆平取町過疎地域持続的発展市町村
計画について

昭和45年に「過疎地域対策緊急措置法」が10年間の時限立法で制定されて以来、約50年にわたり過疎地域対策として特別措置法が講じられてきました。令和3年4月の「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別

措置法」の施行に伴い、「平取町過疎地域持続的発展市町村計画」が策定されました。(まちづくり課)

◆過疎地域持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例及び規則の制定について

「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」の施行に伴い、「過疎地域の指定に伴う固定資産税の課税の特例に関する条例」が廃止され、新たに「固定資産税の課税の特例に関する条例及び施行規則」が制定されました。(税務課)

◆本町地区公共施設等再配置の検討
状況及びバチラー保育園改築工事
について

福祉系複合施設が建つ予定だった旧病院跡地につきましては、9月2日にプロポーザルを行い、今後の本町地区のランドデザインを検討していきます。(まちづくり課)
第6次総合計画にバチラー保育園の園舎改築を計上し、この度の改築場所の検討にあたり、現在の保育園敷地と病院跡地が隣接していること

から、聖公会に町有地の活用を提案しました。保育施設の整備については、園舎と園庭の間を子供が徒歩で安全に移動することができるという条件が確認されたので、聖公会よりの借用の申し出がありました。(保健福祉課)

Q 改築にかかる費用は。(四戸)

A 総事業費は5億2000万円と試算し、国・道からの交付金2億8346万7000円、法人負担9448万8000円、町負担は、差し引き過疎債含め1億4204万5000円となる見込みです。

Q 前回の提案の時には、保育園の建設場所に関して、商店街の空洞化にも配慮されたものとなっていた。今回の計画変更もランドデザインを持たない町のあり方に問題があるのではないか。(櫻井)

Q 病院跡地の活用についてランドデザインが検討されていないのが問題だと思ふ。医師住宅、バイオマス施設についてもその場ののぎという感じは否めないがどうか。(千葉)

A 今回ランドデザイン策定で一応の方向性を出したいと思っておりますのでご理解いただきたい。

産業厚生常任委員会

8月31日開催 報告事項

◆本町地区公共施設等再配置の検討
状況及びバチラー保育園改築工事
について

Q 将来を見据え保育園の統合も含め考えているのか。(木村)

A 今後検討せざるを得ない時期も近いと思われるので、各保育園との協議が必要になると考えています。

◆平取町商工会館環境改善補助について

商工会では、経年劣化による建物、備品の改修費を当初予算に計上していましたが、見込額より費用がかさんだため、町への支援要請があり、不足分53万円を補助することにしました。(観光商工課)

令和2年度肥育牛売上及び仕入状況

	令和2年度		前年対比	
	頭数	金額(千円)	頭数	金額(千円)
肥育牛売上	128	125,018	5	△ 10,192
肥育牛仕入	83	46,186	△ 3	△ 14,644

令和2年度決算状況

(単位:千円)

	令和2年度	前年対比
売上高合計	149,716	△ 1,341
営業利益	△ 58,097	△ 5,181
営業外収益 雑収入	36,818	23,374
当期純利益	△ 22,189	18,984

◆令和2年度平取町畜産公社
(第48期) 決算状況等について

令和2年度は、新型コロナウイルス
又感染症の影響等で枝肉単価が低
迷し、売上高及び営業利益は前年度
より減少しましたが、営業外収益の
雑収入が3681万8000円で、
前年対比2337万4000円増
となりました。内訳は、肉用牛経営
安定交付金2303万5000円、
新型コロナウイルス関連支援金等
704万9000円が給付され、赤
字額が前年度より減少しました。

Q 連動スタンション新設と分娩
通報システムを導入したことによる
効果は何か。
(松澤)

A スタンションをつけたことに
より、繁殖牛が安定的に配合飼料を
食べ、母体にはいい効果が出ていま
す。分娩通報システムについては、
出産の2時間前になるとEメールで
職員に通知されるので、子牛の分娩
事故は減っている状況です。



△スタンション
(牛の頸部を挟んで安定させるつなぎ止め具のこと)

Q 平成29年からの増頭計画は、
現在どのような状況か。
(鈴木)

A これまで町外の高額の牛を購
入していましたが、なかなか収益が
出ないということもあり、少しでも

経費を抑えるため、まず、なるべく
町内の繁殖生産者の300キロ以下
の牛を安く買い、そしてそれを20か
月肥育し、大きく育てて売るとい
う方法でこれまでの飼養管理の方針を
変え、今後少しでも収益増につなげ
たい考えです。

◆「びらとり和牛」ブランドの維持
について

和牛生産者が減少する中、畜産公
社の果たす役割はさらに重要になっ
ています。ブランド名を消さないた
めにも経営改善を図り、その取組と
して肥育素牛購入から自家生産によ
る肥育牛の出荷へと方針転換してい
きます。そのためには、畜産公社の
繁殖牛を70頭から100頭へと段階
的に増頭更新を図りたいと考えてい
ます。それには現施設では収容困難
なため土地及び繁殖牛舎、作業機械
等を取得する必要があります。
(産業課)

Q 畜産公社の経営改善を図って
も、今後もさらに厳しい経営状況が
続くようであれば「びらとり和牛」
というブランドの維持を考える時期
に来ているのではないか。
(鈴木)

A 今の状況が続けばこれまで同
様に経営は厳しいです。今ある体制
の中で徐々に繁殖牛を増やし、自家
生産による肥育牛の出荷を増やし
て、黒字転換を目指し「びらとり和
牛」のブランドを残していきたいと
考えます。

◆認知症対応型共同生活介護(認知
症グループホーム)公募結果につ
いて

当事業予定者は、札幌市に本部を
構えている特定非営利活動法人「は
なつた」。開設予定地は二風谷89番
地1、令和5年4月から事業開始の
予定です。
(保健福祉課)

◆医師住宅新築工事3号棟について

当初予算3000万円で木造平屋
一戸の建設及び職員住宅、物置等の
解体、敷地造成を計画してしました
が、発注に向け再積算を行った結果、
210万円の増額になりました。

Q 車庫を整備することが必要で
はないか。
(金谷)

A 敷地造成と合わせ検討します。

(国保病院・建設水道課)

行政報告

◆要望経過報告について

9月3日、道内選出の堀井学衆議院議員、長谷川岳参議院議員が来町し、国道237号線の整備と河川改修整備の促進、アイヌ施策推進法の施行に伴い創設された新交付金制度の活用などについて要望しました。

◆令和3年度平取町表彰について

今年度の功労表彰、貢献表彰及び善行表彰の受賞者が報告されました。

◆農作物の生育状況について

水稻の作柄は、平年よりも出穂が早く順調に進んでいましたが、8月中旬以降は、低温傾向で登熟進度は鈍化したものの、成熟期は平年よりも6日早まっています。水稻の作付状況は、品種別作付面積で見ると「なつばし」が全体の55.7%、「ゆめびりか」は全体の37.6%になっており、平取町全体としての作付面積は前年より1.5ha減少し、



△9月9日実施の作況調査の様子

472.3haとなっています。

トマトの出荷状況は、8月25日現在で、出荷量8901t、金額にして27億5900万円、単価310円と前年並みの価格を維持していましたが、9月に入ってから7月、8月にかけての高温の影響か、数量が伸び悩んでいるうえに安値が続いたため、トータルで前年を下回る状況にあります。

教育行政報告

町内小中学校の状況については、緊急事態宣言が6月20日に解除され、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら学校活動を進めてきました。7月には、中体連日高地区大会が実施され、平取中学校、振内中学校から地区大会を勝ち抜いた生徒が全道大会に出場しています。

夏休み中は、子ども達に事件事故もなく、休み明けには振内中学校の修学旅行が行われましたが、8月26・27日に予定されていた町内小学校の合同修学旅行は、新型コロナウイルス緊急事態宣言が北海道に発令されたことにより延期になりました。

今後予定されている中学校の学校祭・文化祭、小学校の学習発表会については感染予防対策を徹底しながら実施します。

町内小中学校における「いじめ問題」に関する児童生徒への実態把握調査」結果については、360名の回

答状況となっています。回答の中で、心配される点として『いやな思いをしたときに誰に相談するか』との質問に対して、『相談しない』と回答

した児童生徒が36人いたということ、対応に遅れる可能性が懸念されるため、各学校に指導しているところです。また、『いじめはどんなことがあっても許されないことだと思いますか』との質問に対して、『いいえ』の回答が9件、『わからない』の回答が29件ありました。各学校でも「いじめ」は絶対にあってはならないという様々な取り組みを行っているにも関わらず、このような回答があることを重く受け止め、引き続き「いじめ根絶」に向けた指導の徹底に努めるよう各学校に対し指示しています。



審議した議案

第8回

臨時会

令和3年
7月16日

▼一般会計補正予算(第6号)

認知症グループホーム「こころのホームふれなほ」開設運営事業費補助、新型コロナウイルス感染症防止対策に係る飲食店協力支援金びらとり和牛消費拡大事業、その他新型コロナウイルス感染症予防対策に係る備品購入等1793万7000円を追加

・契約金額：1億32万円

《本町中央住宅団地公営住宅新築工事 2号棟》

・工事場所：平取町本町180番地2
・工事概要：木造2階建て1棟4戸
延べ面積327.78㎡

・契約者：日新建設株式会社
・契約金額：9031万円

▼工事請負契約の変更
《仁世宇川沿線仁世宇1号橋下部工
外道路工事》

・工程調整、作業ヤードの変更
1億450万円から1億353万
2000円に減額

▼条例の制定

過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例

▼一般会計補正予算(第7号)

新型コロナウイルスのワクチン接種に伴う健康管理システム改修、新規就農者用リース農場整備事業補助、その他新型コロナウイルス感染症予防対策に係る関連費用等4528万9000円を追加

▼特別会計補正予算

○介護保険特別会計補正予算(第1号)
介護保険制度システム改修、介護給付費及び地域支援事業、低所得者保険料軽減国庫・道負担金等返還金3133万8000円追加

○国民健康保険病院特別会計補正予算(第2号)

新型コロナウイルス感染症防止対策及びワクチン接種体制支援、医師住宅新築工事940万5000円追加

▼令和2年度国民健康保険病院特別会計及び一般会計ほか各会計決算認定について
決算審査特別委員会に付託し、審議を行うことになりました。

▼意見書案の提出

次の5件の意見書案を可決し、関係行政省庁へ送付しました。

・コロナ禍による厳しい財政状況に
対処し地方税財源の充実を求める
意見書

【提出者：櫻井議員】
・国土強靱化に資する社会資本整備
に関する意見書案

【提出者：櫻井議員】
・地方財政の充実・強化に関する意
見書

【提出者：高山議員】
・義務教育費国庫負担制度堅持・負
担率1/2への復元、教育予算確
保・拡充と就学保障の実現に向け
た意見書

【提出者：高山議員】
・2021年北海道最低賃金改正等
に関する意見書

【提出者：中川議員】

▼工事請負契約の締結

《本町中央住宅団地公営住宅新築工
事 1号棟》

・工事場所：平取町本町180番地2
・工事概要：木造2階建て1棟4戸
外構工事一式延べ面積327.78㎡

・契約者：(株)五十嵐工業

第10回

定例会

令和3年
9月16日

▼教育委員の任命

小林明美氏(荷葉)を同意しました。

▼平取町過疎地域持続的発展市町村
計画の策定

過疎地域の持続的発展の支援に関
する特別措置法の施行に伴う過疎
計画の策定

あの人に聞く

～去場自治会 会長と荷菜自治会 副会長の2人に聞きました～



去場自治会 会長

ふくやま としかつ
福山 利勝さん

去場地区は72戸で暮らしております。ここ2年、新型コロナウイルス感染症の影響で自治会活動も休止状態になっています。去場においても各地区同様いろいろな問題を抱えており、近年は減反政策により稲作が減り牧草地が増えた風景です。国の政策で将来脱炭素化の社会（石炭火力発電9割減、温室効果ガス、二酸化炭素の削減）の方針が打ち出されました。議会、町には環境に配慮したまちにしてほしいと思います。現在進めているバイオマス産業、交通量の多い国道237号線の大型トラックの排出ガス問題にも取り組んでほしいと思います。沙流川流域の自然文化資源と地場産業を活かしたまちづくりを期待します。希望と安心な平取町であってほしい。最後に、本年度防災無線が当地区に設置されることになり感謝いたします。



荷菜自治会 副会長

さかした くにあき
坂下 晋章さん

平取町は、和牛、水稲、トマトなどの野菜等品質の良い食材を生産していますが、年々生産者も高齢化が進んでいて、引退される方も増えています。そういった方々に協力して頂き、新鮮な野菜等を販売できる施設があればもっと活性化すると思います。ただ、国道237号線は観光道路ではないので、なかなか当町の場所をご存じない方が多い様に思います。平取町は『近い』と知ってもらう活動や宣伝をして、たくさんの方々に来て頂けると町にも活気が出ると思います。

また、水道、電気などのインフラ整備、豪雨の場合の排水の強化などこれまで以上に力を入れて頂き、災害に強いまちづくりをお願いいたします。

議会に対しては、安心して暮らせるまちづくりのために、町民との対話の機会を作って頂きたいと思います。